

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	672700325
法人名	医療法人社団 緑愛会
事業所名	グループホーム 満天の家
訪問調査日	平成 19 年 12 月 10 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 6 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月31日

【評価実施概要】

事業所番号	672700325		
法人名	医療法人社団 緑愛会		
事業所名	グループホーム 満天の家		
所在地 (電話番号)	山形県西置賜郡小国町大字幸町6番1号 (電話) 0238-62-3311		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年12月10日	評価確定日	平成20年2月6日

【情報提供票より】(平成19年11月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13.5 人	常勤	13 人, 非常勤 0.5 人, 常勤換算 13.5 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	新築/改築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,900円 日額	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	食費に含む 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	71 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小国町立病院	加藤歯科医院
---------	--------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣住民のボランティアの訪問が多いこと、自宅栽培の野菜をホームに届けてくれる方がいることなど、地域の多くの方々からの理解と協力があり、また、町の中心部にホームがあるために、近くのスーパーや商店街にも気軽にホームから出かけて行くこともできています。また、管理者や職員は同じ法人内の他のグループホームとも連携を図りながら、一人ひとりがその人らしい生活を続けられるよう、利用者を支える職員を育てる研修や実習にも積極的に取り組んでおり、さらに質を高めていこうとする向上心にあふれたホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前はホームの玄関が来訪者にわかりにくいような状況も見受けられたが、今回は新しく案内板が設置されたことにより、外部からホームを訪ねた者にもわかりやすく改善されていた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価について学習会を行い、自己評価はユニット長を中心とし、管理者・職員の意見を聞きながら作成しているが、全職員からの意見は聞き出せていない。自己評価の際は項目一つひとつを職員全員で日頃のケアを振り返りながら点検していく過程が重要であるため、職員全員で自己評価に取り組んでみることを期待される。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) サービス利用状況や外部評価等についての情報提供と説明、また、各委員から出される意見を反映してサービスの質の向上を図るようにしており、2ヶ月に1回、奇数月に開催されている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホーム独自のアンケートや検討会の際に家族の意見を求めて介護計画や日々の業務にも反映させており、また、重要事項の説明の際には意見を言える窓口についても説明されている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内の夏祭りに招待される、ホームの夏祭りに近隣住民を招待するといった地域との相互交流があり、また「お茶会」や「ハーモニカ演奏会」などによる交流も図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のもと、地域密着型サービスとしてホーム独自に理念を構築し、各玄関前に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のユニット会議や自己評価を利用し、理念の実践や個別支援についての検討を行い、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の夏祭りに招待される、ホームの夏祭りに近隣住民を招待するといった地域との相互交流があり、また「お茶会」や「ハーモニカ演奏会」などによる交流も図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価について学習会を行い、自己評価はユニット長を中心とし、管理者・職員の意見を聞きながら作成しているが、全職員からの意見は聞き出せていない。	○	自己評価の際は項目一つひとつを職員全員で日頃のケアを振り返りながら点検していく過程が重要であるため、職員全員で自己評価に取り組んでみることを期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス利用状況や外部評価等についての情報提供と説明、また、各委員から出される意見を反映してサービスの質の向上を図るようにしており、2ヶ月に1回、奇数月に開催されている。		

山形県 グループホーム満天の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町主催の各事業所が集まる高齢者部会の会議や学習会に参加して情報交換を行い、町の担当者とともに利用者サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状況や通院の際はその都度、電話で報告したり面会時に報告して家族が日々の状況を把握できるよう取り組んでおり、また、請求書等と一緒に便りや金銭出納状況を月1回送付し報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム独自のアンケートや検討会の際に家族の意見を求めて介護計画や日々の業務にも反映させており、また、重要事項の説明の際には意見を言える窓口についても説明されている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>日頃からユニット間合同の行事等を行い、別のユニット職員でも馴染みの関係ができており、また、職員の異動の際には利用者及び家族等に説明し、不安を与えないような配慮を行っている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体の研修計画やホーム独自の学習会の計画に基づき研修を受講している。また、それ以外の外部研修についても段階に応じた研修を受講できるよう配慮している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町内にある事業所の職員対象の学習会や情報交換会に参加したり、法人内グループホーム職員間で相互に学習会を開催して、より良いサービスが提供できるよう取り組んでいる。</p>		

山形県 グループホーム満天の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	課題分析を行い、一人ひとりの生活状況や好みのものを把握し、掃除や食事準備、買い物等の役割を持ってもらい、職員と共に過ごしながらか支援できるよう取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のできることやできないこと、以前の生活状況の情報を把握したり家族等からの情報を得て、本人らしい生活が継続できるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のユニット会議や介護保険更新時等に本人及び家族も参加する会議を開いており、互いに意見を出し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の介護計画の評価を積み重ねながら6ヶ月ごとの計画見直しを行っており、また、心身の状況等に变化がある場合は、本人及び家族等から意見を伺いながら本人の状況に合致する介護計画を作成している。		

山形県 グループホーム満天の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	ホーム利用前のかかりつけ医に引き続き受診できるよう配慮しており、かかりつけ医の変更が必要な場合は、本人及び家族、医師とも話し合いを行って変更するようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項の説明の際に重度化した場合について説明し、本人や家族と方向性についての話し合いが行われている。また、重度化した場合はその方向性に基づき、本人や家族、医師とさらに話し合いを重ね、利用者や家族が不安にならないよう配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを意識した支援について、振り返りが行えるよう取り組んでいる。また、記録物等の個人情報はスタッフルームの書庫に保管されており、部外者から見えないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状態や希望に合わせ、同意を得ながら掃除や食事準備、後片付け、買い物、散歩の支援が行われている。		

山形県 グループホーム満天の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物、調理、後片付け等を職員が一方的に行うのではなく、利用者と共に会話をしながら楽しんで行えるように支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者それぞれの希望に合わせて行われており、入浴のタイミングの見極めや誘い方の工夫がなされている。また、入浴剤や季節の草花を浴槽に入れ、目でも楽しめるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護計画を作成した際に行った課題分析に基づき、利用者一人ひとりの個性や心身の状況に合わせて、掃除、編み物、買物等を行ってもらいながら、できるだけ張り合いのある生活を継続できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の体調や天候に合わせた近所への散歩、外食、ドライブなどの外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	ホームから外に出て行こうとする利用者には職員と一緒に行動し、本人が納得できるまで付き添う支援が行われており、また、身体拘束についての学習会の機会を設け、その弊害について職員全体で理解できるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中に、夜間の災害発生も想定しながら近隣住民も参加した訓練が行われており、また、年2回の避難訓練や隔月の通報訓練も行われている。		

山形県 グループホーム満天の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個別のシートを利用して摂取状況を記入することにより、おおよその栄養・水分摂取量を把握している。また、食べやすい食事形態や疾病のある方には代替食を提供し、栄養・水分量を確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット玄関やホールに季節の装飾があり、季節感が感じられるよう配慮されている。毎日の掃除の時は窓を開けて換気をしたり、加湿器の利用に加えヒーターに濡れたタオルを掛けるようにもしており、湿度管理への配慮も常時行われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時に家族と話し合いを持ち、本人の以前の生活に近づけるよう、机や家族の写真、絵や賞状等を持ち込んでもらっている。本人が不安になることなく過ごすことができるよう、家族と共に取り組んでいる。		